

第2回豊川市スポーツ振興計画（改訂版）策定委員会 会議録

・日 時 平成26年12月18日（木）午後2時00分～午後4時20分

・場 所 豊川市音羽文化ホール（3階）大会議室

・出席者

（策定委員）

伊藤委員長・浅野委員・杉浦委員・寺部委員・柴田委員・北国委員

荻野委員・壁谷委員・加藤委員

（事務局）

近藤教育部長・柴谷教育部次長

中村スポーツ課長・戸苅課長補佐・小木曾係長・山口主事

・欠席者

（策定委員）神谷委員

・傍聴者 0名

開 会

（事務局：戸苅課長補佐）

ただいまより、第2回豊川市スポーツ振興計画策定委員会を開催させていただきます。

なお、本委員会は、豊川市審議会等見える化ガイドラインの規定に基づき、公開により開催し、会議録につきましても後日公開されることを申し添えます。

1 あいさつ

（伊藤委員長：あいさつ）

本日は足元が悪い中、またお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。12月13日の中日新聞に12月21日に開催される全国高校駅伝の記事が掲載されておりました。豊川高校の男子・女子駅伝部が出場し、優勝も狙えそうとのことで頑張ってくださいと思います。トップアスリートを出す豊川市であり、注目の的となっているのではないかと思います。

そのような中で、市スポーツ振興計画の改訂版策定の作業を進めていますが、策定委員は大変な役割を果たしていると思います。

11月29日に文部科学省が全国の小学生の運動テスト・運動習慣等の調査

結果を発表しました。私が注目したのが、家の方からスポーツの勧めがある児童は運動量が多いと結果が出ていたことです。地域住民の健康・仲間・体力づくりのため、子ども達にもスポーツに関心を持ってもらいたいと思います。子どもたちへスポーツの実施を促すためには、私たち大人の発言、行動が大きく影響するのではないかと思います。このスポーツ振興計画の見直しの中でP D C Aサイクルが大きな意味を持っているとも思います。

本日は、皆様から貴重なご意見を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。

2 協議事項

(事務局：戸苅課長補佐)

それでは、協議に入ります。本委員会設置要項第6条に基づき、議長は委員長が行うこととなっておりますので、伊藤委員長、会の取りまわしをよろしくお願いいたします。

(1) 豊川市のスポーツに関する市民意識調査報告書(案)について 資料1

(事務局：小木曾係長)

資料1により説明・提案

(寺部委員)

資料1～3の分量が多いので、計画書は市民向けにもっと簡素化したものがあっても良いのではないかと。(計画書概要版＝作成予定)

現在行っているスポーツ、今後やってみたいスポーツともにウォーキングの比率が高くなっている。指導者が必要な競技性が高いスポーツと指導者が要らないウォーキングのようなスポーツではジャンルが異なる。既存のウォーキングイベントでは、参加賞でお菓子などをもらうこともあり、もらえるとうれしいため、参加意欲が高くなるのではないかと。競技性が高いスポーツだと指導者に怒られるようなこともあり、また、順位もついてしまうため、比べられてしまうとう参加意欲が落ちてしまうのではないかと。

(壁谷委員)

ライフステージは人それぞれで、個人個人でスポーツに関わる視点は違う。お年寄りの方がいきなり総合型地域スポーツクラブに参加するのは少しレベルが高いかもしれない。そういった方が気軽に楽しめるようなウォーキングコースやイベントなどがあるとスポーツをするきっかけとなるのではないかと。

また、お金を払ってスポーツをする方もいる。主婦層は子育て等で忙しいため、手軽にできるスポーツを好むと思う。子どもと一緒に参加するイベントは参加しやすいのではないかと。それに加え、子どもが小さい家庭は、公園などに行き楽しんで遊んでいるうちに自然に体力がつくのではないかと。

最近の子どもは、公園に行くにもゲーム機を持って行き、体を動かさずにゲー

ムをしている。塾などで忙しくて、遊ぶ時間も少なく、家にもゲームをする子どもが多くなっていると思う。逆にスポーツ少年団などに加入している子どもは運動神経が発達しているため、スポーツをする子としない子の2極化に拍車がかかっていると思う。ただし、いろんな動きをしているかと言うと、決まった動きが多い。そのため、様々な場面でいろいろな動きができる場所や環境があると良いと思うし、親が意識して子どもをそういう場所へ連れて行けば遊びながら、自然に体を動かし、体力の向上につながるのではないかと思う。

豊川市内の身近な場所にアスレチックなどがあることで子どもが楽しめる施設があると良い。自分が子育てをしていた頃は、豊橋市の公園や新城市の桜淵公園など遊べる場所を探して行った。豊川市内では、赤塚山公園や御油町の県のふるさと公園などがあると思うが、魅力的な施設がたくさんあれば、親が子どもを連れて行く機会が増えるのではないか。

各地域のスポーツニーズにあわせて、市としてできることを考えていくことが大切だと思う。

(伊藤委員長)

それぞれの年代やニーズに合わせた施設整備を考えると、整備・設置費や管理費などの経費に絡む部分があり、なかなか難しい面もあるとは思いますが、体験談を含めた貴重なご意見をいただきありがとうございます。

(浅野委員)

牛久保駅から遺跡や神社をめぐるウォーキングイベントが新聞で紹介されていたが、そういった取り組みも楽しそう。

ウォーキングの推奨コースを広報などで紹介していくと良いと思う。イベントになると企画・運営等、多くのスタッフや事務局が必要となる。スタッフをすぐに増やしていくのは現実的ではないため、イベントを実施しなくても個人個人が自分たちで自由に歩いてもらえるような取り組みが必要となるのではないかと思う。

(柴田委員)

広報に毎月1回でもウォーキングコース等の紹介があると良いのではないか。予算や企画等がなくても個人や仲間などで気軽にウォーキングに親しむ人が増えることで、スポーツ実施率が向上すると良い。

(伊藤委員長)

貴重なご意見をいただきありがとうございました。他にご意見等ないので、協議事項(1)豊川市のスポーツに関する市民意識調査報告書(案)について承認していただける委員は拍手をお願いします。⇒承認

(2)小学生の運動・スポーツ活動に関するアンケート調査報告書(案)について資料2

(事務局：小木曾係長)

資料2により説明・提案

(北国委員)

P3の問7・8について、総合型地域スポーツクラブを知らないという回答が多くある中で、クラブに入ってみたいかとの問いに疑問を感じた。クラブの内容や実態を理解していないのにこのような問いをするのはどうかと感じた。クラブの認知度が低いことが想定された今回の調査では、認知度だけを聞くほうが良かったのではないかと思う。

(事務局：中村課長)

アンケートは、総合型地域スポーツクラブ（わすぼ一宮）の会員募集チラシの一部を掲載して実施した。今後、クラブの周知を積極的に行いたい。

(事務局：近藤部長)

ご指摘のとおり問7・8が並んでいると問8の信憑性に欠けると捉えられる可能性もあるので、報告書の問8の調査結果については、工夫して掲載していきたいと考えますが、いかがでしょうか。

(北国委員)

どの程度の理解度で回答してきたのかが分からないため、少し工夫して掲載して欲しい。

(伊藤委員長)

調査報告書として掲載するには、一長一短があり難しいところです。掲載するのではあれば、事務局で北国委員とも調整して工夫し、掲載するようにお願いします。

(事務局：近藤部長)

掲載については、部内でも一度検討し、北国委員にも相談させていただきながら調整させていただきたいと思います。

(伊藤委員長)

他にご意見等ないようですので、協議事項(2)小学生の運動・スポーツ活動に関するアンケート調査報告書(案)について、承認していただける委員は拍手をお願いします。 ⇒ 承認

(3) 豊川市スポーツ振興計画(改訂版)(案)について 資料3

(事務局：小木曾係長)

資料3により説明・提案

(伊藤委員長)

審議に入る前に、P50・51の事務局から説明・提案のあった年次計画の訂正箇所を承認を行いたいと思います。

<訂正箇所>

P50 スポーツ観戦率

平成22年度実績値 5%⇒10%、平成26年度目標値 10%⇒15%

年次計画の表内 スポーツ観戦率の数字を掲載している。当初計画では市内の競技場での観戦率を想定した数値を掲載したが、市内外の競技場での観戦率を高めることがふさわしいと判断したため、考え方を改め数値を修正した。

P51 指導者・スポーツボランティアの登録率⇒スポーツ指導者・ボランティアの活動率

年次計画の表内 登録率と表記しているが、当初の目標として、指導者やボランティアとして活動する人を増やすことを掲げていたことから、活動率に修正した。

事務局の説明・提案について、承認していただける委員は拍手をお願いします。

⇒ 承認

(事務局：中村課長)

赤塚山公園内にあります、市民のスクエアですが、現在、所管課の公園緑地課でグラウンドの人工芝化に向けた改修計画を検討している。

確定すれば、年次計画に掲載をしていきたいと考えている。

(伊藤委員長)

事務局からの説明のとおりですので、ご承知おきください。

計画書(案)についてご意見等ありましたらお願いします。

(杉浦委員)

スポーツ少年団に加入しているのは、小学生が中心。団員募集や団の案内チラシを各施設や学校へ常時掲示してもらえると加入率が上がるのではないかとと思う。スポーツ少年団には、公認の指導者がいるので、安心してスポーツに親しむことができると思う。

(北国委員)

みんなが気軽にスポーツに楽しめる総合型地域スポーツクラブができることのメリットをPRするとクラブの認知度も上がり、加入者数が増えて行くのではないかとと思う。20代・30代の方は忙しく、時間がないのは明らかであるが、そういった方を取り込んでいくには、土・日曜日の活用や親子をターゲットにした事業展開が重要。スポーツ課だけのPRだけでは弱いので、スポーツ推進委員を含めて市全体で連携してどのようにしてPRしていけるのかを検討する必要がある。

自分は、総合型地域スポーツクラブの立ち上げから携わっている。クラブの会員募集や広報などのチラシを各戸配布・組回覧しているがあまり効果がないのが現状。ほとんどの人は見てくれないのが現実である。理由は、時間がないから、組回覧の回覧板に入っているが他のチラシ等も多く、見ないとの意見があった。口コミが一番効果的であった。今後、行政だけでなく口コミを効率的に利用して、加入者を増やしていきたいと思っている。

ウォーキングは、時間的な束縛がなく個人でも行う事ができるスポーツだと

思うが、その中に人と人とのコミュニケーションが図れるような取り組みをしていけばなお良いと感じる。

(壁谷委員)

スポーツをする子としない子の2極化にも関わるが、スポーツ・運動をしていない子どもにぜひスポーツ・運動をしてもらいたいと思う。保護者がスポーツができる場所へ子どもを連れていくのは負担になることもあるので、総合型地域スポーツクラブのように身近な所で、だれもが参加できるような取り組みは非常に良いと思う。小さいころから総合型地域スポーツクラブに関わっているとその繋がりですべて将来的にもスポーツをしてもらえるのではないかな。

ただ、会員・会費制というのがネックになる部分もあると思う。「会員」という言葉で加入しない子どももいるのではないかな。

(加藤委員)

スポーツ少年団等に参加させていきたいと思っても、保護者の負担が多いと感じている方もいると思う。スポーツ少年団も監督・コーチだけでは人員不足で親にも負担がかかってしまっているのが現状ではないだろうか。親の負担が多い種目だと親が子どもを入団をさせずに、スポーツをやりたいと思ってもできない子どももいるのではないかな。

(荻野委員)

先日、総合型スポーツクラブ「わすぼ一宮」の会員募集のチラシ配布依頼のために、地元の小・中学校に出向いた。校長先生に依頼をしたが、クラブがあることすら知らない先生もおり、大変ショックを受けた。少しずつでも良いのでこれからは学校とも関わりを持ちながら積極的にPRし、クラブの設立趣旨や活動を理解していただける方を増やしていきたい。

(寺部委員)

スポーツをするためのきっかけづくりについて、町内会の役を受けて初めて知ったが、地元の校区体育振興会では3世代が交流できるグラウンド・ゴルフ大会を実施している。家族ぐるみで参加できる大会で、グラウンド・ゴルフは誰でも気軽に楽しめる種目であるため、参加者も多い。

行政だけでなく町内会や校区体育振興会の協力もスポーツを行う「きっかけ」づくりとして重要な役割があるのではないかなと思う。

本宮の湯の近くにマレットゴルフを行える施設があるが、こういった身近にある環境をさらにPRしていくと良いのではないかな。ロコミや地元ケーブルテレビの活用も有効な手立てではないかな。

(伊藤委員長)

ロコミ、パンフレット配布や掲示等をしていても情報提供不足といわれている。学校等の全面的な協力も必要という声もある中で、どのように市民へ情報を浸透させるか課題である。

(事務局：小木曾係長)

昨日、一般の市民の方から電話があった内容を紹介させていただく。その方は現在スポーツ振興計画の中間見直しや市民意識調査を実施していることは全く知らない様子だった。スポーツ課でスポーツ振興を図る上において、市民のスポーツの実施状況や市民ニーズを把握しているかとの問合せであり、現在、スポーツ振興計画の中間見直しの作業中で市民意識調査も実施しながら、状況確認をしつつ、市民ニーズの把握に努めている旨の話をしていただいたところ、それは良いことを聞いたと言っていた。多額の費用をかけて施設等を整備することよりも、ウォーキングコースの紹介や街路灯の整備など、身近な場所で市民が安全に健康づくりや体力づくりを行うことができるように考えていくことが重要であるとの提案もいただいた。また、様々なスポーツ振興に関する情報提供を地元の新聞、ケーブルテレビなど色々な媒体を利用してPRしていくことも重要であるとの提案もいただいた。

こちらからは、スポーツ課だけでなく、校区体育振興会、スポーツ推進委員、体育協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブなど、多くの関係組織や役所内の他部門の横の連携を深めることが重要だと改めて感じた。市民も巻き込んで、オール豊川でスポーツ振興を図っていききたい。例えば、他部門で公園施設等を整備するときに散策路・街路灯やトレーニング遊具の整備を複数の部署で検討するとか、保健センターや商工観光課で設定しているウォーキングコースをスポーツ課がPRする等、役所内で横の繋がりをさらに深めていき、市民へ情報発信をしていくことが必要だと感じているとお話した。

また、最後にはスポーツ振興計画が3月の公表されることを楽しみにしているとのことご意見もいただいた。計画を策定してからそれをいかに実行できるかが大切であると改めて思っている。

(伊藤委員長)

実際に、スポーツ振興を図る上において、行政だけでは限界がある。どのようにすれば、市民一人一人のライフステージにおいて、スポーツに親しんでもらえるのかを行政だけでなく、スポーツ振興に関わるみんなと考えていかないといけない。それぞれの立場で支援できることは色々あると思う。

今、小学校で英語の授業を増やすのに、どの教科の授業時間を減らすのかが問題となっているようで、体育の時間・授業を削るという案が出ている。学校でやることは増えているが、限られた時間を取り合いしている状況。市民でも何を優先するのかとなった時に、お金がかかる場合はスポーツをやめるという方もいるだろう。スポーツはお金をかけるものでなく娯楽だという考えの方も多いが、自らの健康を守る上においてはそれなりのお金もかかるという意識改革も必要となる。

このスポーツ振興計画書に書いてあることは、市民のスポーツ振興のバックボーンになる。市民のスポーツ振興を図る上でのビジョンをこの計画に記載することが第1歩となるのではないかな。

支えるスポーツを推進する上で重要なスポーツ指導者・スポーツボランティアについて皆さんのご意見をいただきたい。

(柴田委員)

指導者といえるほどのことではないが、自分は町内でママさんバレーボールチームのコーチをしている。自分自身も健康づくりを兼ねて、一緒にプレーをしながら楽しんでいる。そういった目に見えていない人も含めれば、市内にスポーツ指導者やスポーツボランティアはもっとたくさんいるのではないか。

(浅野委員)

体育協会の下部組織のスポーツ少年団では、監督、コーチ、父兄、OBなど多くの方が携わって運営している。皆さん精力的に団の運営に携わっていただいております、これらの方はすべてスポーツボランティアとして含まれるのではないかと。

(伊藤委員長)

スポーツ指導者・スポーツボランティアは何を基準として考えるかで、その実施・活動率の数値はかなりかわってくるのではないかと。スポーツの指導者資格を持っていなくても裏方として携わっている方は多くおり、我々の目に見えない部分もあると思う。

選抜高校野球の豊川高校の市民を巻き込んだ応援等を見ていると、支えるスポーツという面で豊川市の団結力や盛り上がりは凄いと個人的に実感している。

他にご意見等ないようですので、協議事項(3)豊川市スポーツ振興計画(改訂版)(案)について、承認していただける委員は拍手をお願いします。

⇒ 承認

(4) 今後のスケジュールについて 資料3

(事務局：小木曾係長)

資料3のP66により説明

- 1 パブリックコメント実施 1月16日～2月15日予定
- 2 第3回作業部会 2月17日(火)
- 3 第3回策定委員会 2月20日(金)午後2時～
- 4 3月末までに公表

(5) その他

(事務局：中村課長)

会議後にご意見等がございましたら、12月22日(月)までにスポーツ課へお寄せいただければありがたい。

本日以降の(案)の修正等については、策定委員会を開くのが本来ではありますが、委員長と事務局との協議により調整させていただきたい。なお、パブリックコメント実施前には、資料を各委員へ送付させていただきます。

(伊藤委員長)

事務局より提案があったとおり、今後の修正等については、委員長と事務局との協議・調整の上で行い、委員長一任とさせていただいてよろしいでしょうか。承認いただける委員は拍手をお願いします。 ⇒ 承認

(事務局：戸苅課長補佐)

最後となりましたが、事務局を代表いたしまして近藤教育部長があいさつを申し述べます。

(事務局：近藤教育部長 あいさつ)

閉会

(事務局：戸苅課長補佐)

以上で、第2回豊川市スポーツ振興計画（改訂版）策定委員会を終了させていただきます。本日は、大変ありがとうございました。お気をつけてお帰りください。